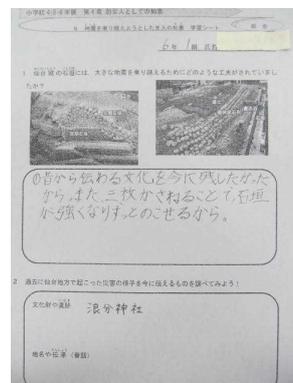


4 これからの学習について見通しを持つ。

仙台城の石垣のように、過去に仙台地方で起こった災害の様子を今に伝えるものを調べてみよう。

○ 副読本 P. 62 「自然災害年表」から地震以外の自然災害にも目を向けさせ、大雨や洪水被害の多さに着目させた。

○ 副読本 P. 47 「地名が伝える先人のメッセージ」から、文化遺産だけでなく、地名や伝承にも注目すると、災害を後世に伝えようとしていることが分かるということに気付かせた。



さらに、例示として、「浪分神社」を板書した。

(例) 浪分神社 若林区霞の目 霞の目駐屯地付近
慶長の津波の際に神社手前まで津波に襲われ、津波が2方向に分かれて引いていったことを伝える文化財。

○ 歴史的な遺産は、先人の知恵や願いを知ることができる貴重なものであり、防災という視点からも大切にしなければならないものであることに気付かせた。

○ 副読本の展開例と同様に、次時にパソコンを利用し、文化遺産や地名、伝承にも注目し、災害の様子を今に伝えるものを調べてみることにした。

<指導後の振り返り>

副読本や web ページを活用すると子供たちにも分かりやすく進めることができると感じた。活用できる web ページが、デジタル教科書のように副読本と一体化しているものがあるとなお活用しやすいと思う。調べる内容もデジタルコンテンツとしてまとめられていると活用しやすい。授業の場所として、パソコン室を利用して web ページをより有効に活用する方法もあると思う。